



1. 鷹巣三堰の歴史

(1) 三堰とは

1661年～1681年に造られた、米代川を
取水源とする三つの堰

太田堰	田沢堰	堰	}	統合した呼び名
坊	巢	堰		
鷹	堰	堰		



太田堰について

- ・ 1662年に造られ、掛泥・悪戸・知子内袋の開発が進む
- ・ 洪水との闘い（1698・1728・1755・1760・1798）
- ・ 修復が困難
- ・ 再興を計った人物 渡部斧松
- ・ 1844年、隧道約1kmを含む1.8kmを築造し、新たに早口川から引水
- ・ 新堰の水は40haの古田の他、新たに70haの開拓



(2) 県営かん排事業

- 三堰（太田堰・坊沢堰・鷹巣堰）は洪水により崩壊・流失
- 導水路は断面不整で維持管理に多大な負担
（太田堰8km、坊沢堰6km、鷹巣堰5km）
- 昭和24年：三堰を合同する計画を樹立
（県営用水改良事業）
- 昭和25年6月1日：鷹巣町の大火により着工の中止

(2) 県営かん排事業

昭和29年 事業計画推進の協議

昭和30年 県当局に調査の再開要望

昭和32年 本格的な測量調査再開

昭和38年 かんがい排水事業と災害復旧事業の同時実施

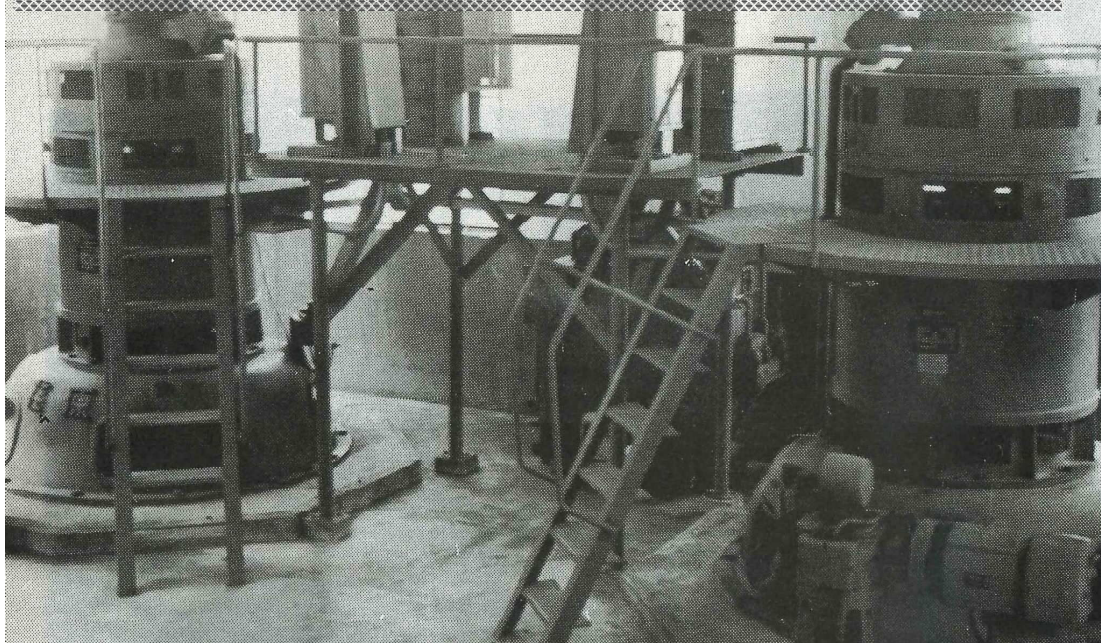
昭和41年3月

三堰築造から300年、合同取水施設（揚水機場）が完成

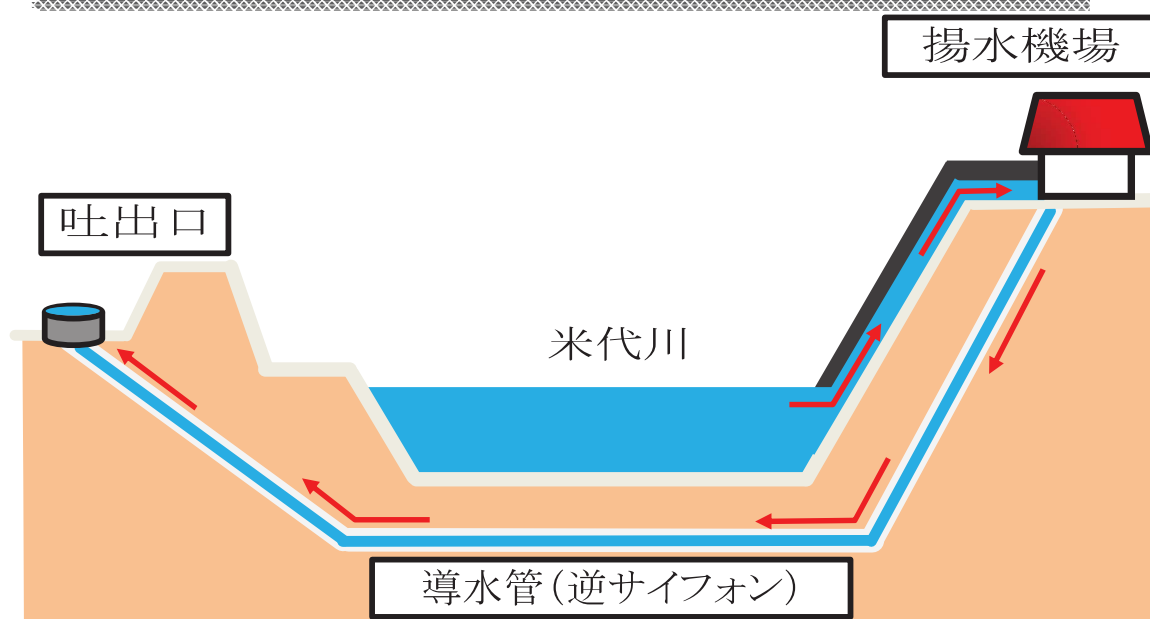
総事業費 270, 190千円



ポンプ設備 (φ900mm×170kW×2台)



導水管 (直径1.5m)





米代川の河底を横断するサイフォン工事



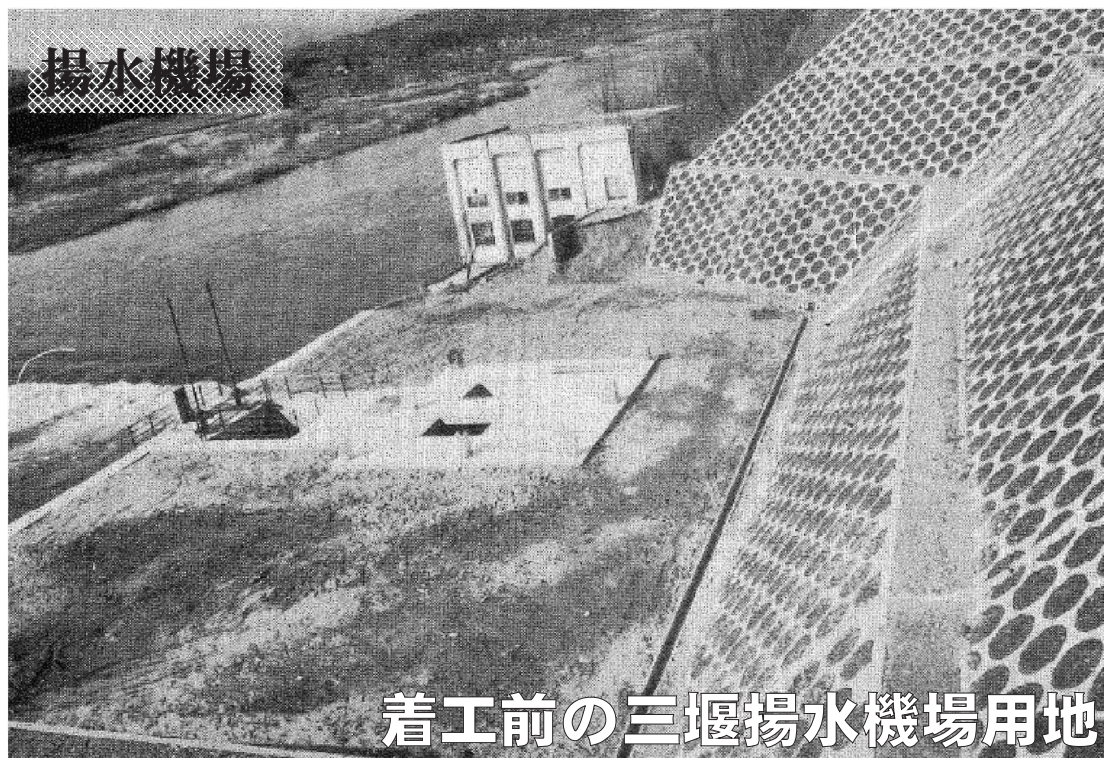
吐出口（円形分水口）



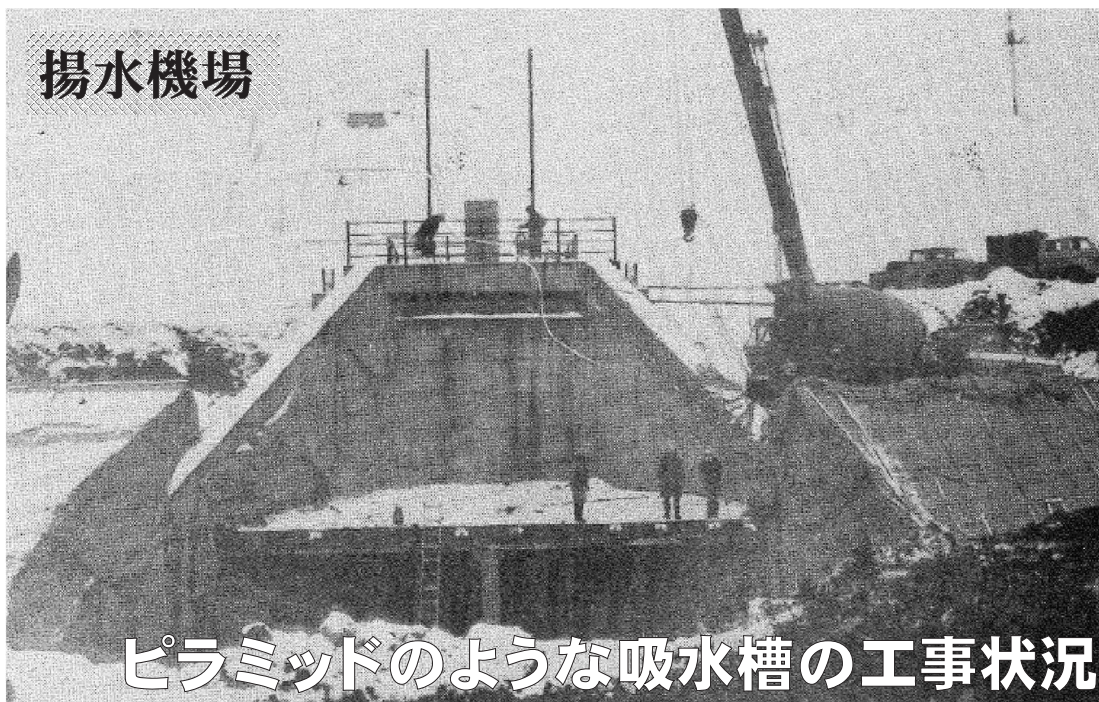
(3) 県営鷹巣三堰地区かん排事業（第2次）

- ・ 昭和53年、河床低下と好天続きで揚水量が減り、無理な運転を続け、一号機が運転不能。二号機も不調で揚水量激減。
- ・ 昭和54年、新年早々から恒久的な対策を検討。
- ・ 施設機能障害対策が認められ、85%の高率補助（国50%、県35%）
- ・ 昭和55年、鷹巣三堰地区かん排事業着工

昭和61年完成
総事業費 636,000千円



揚水機場



ピラミッドのような吸水槽の工事状況

ポンプ設備（φ800mm×220kW×2台）

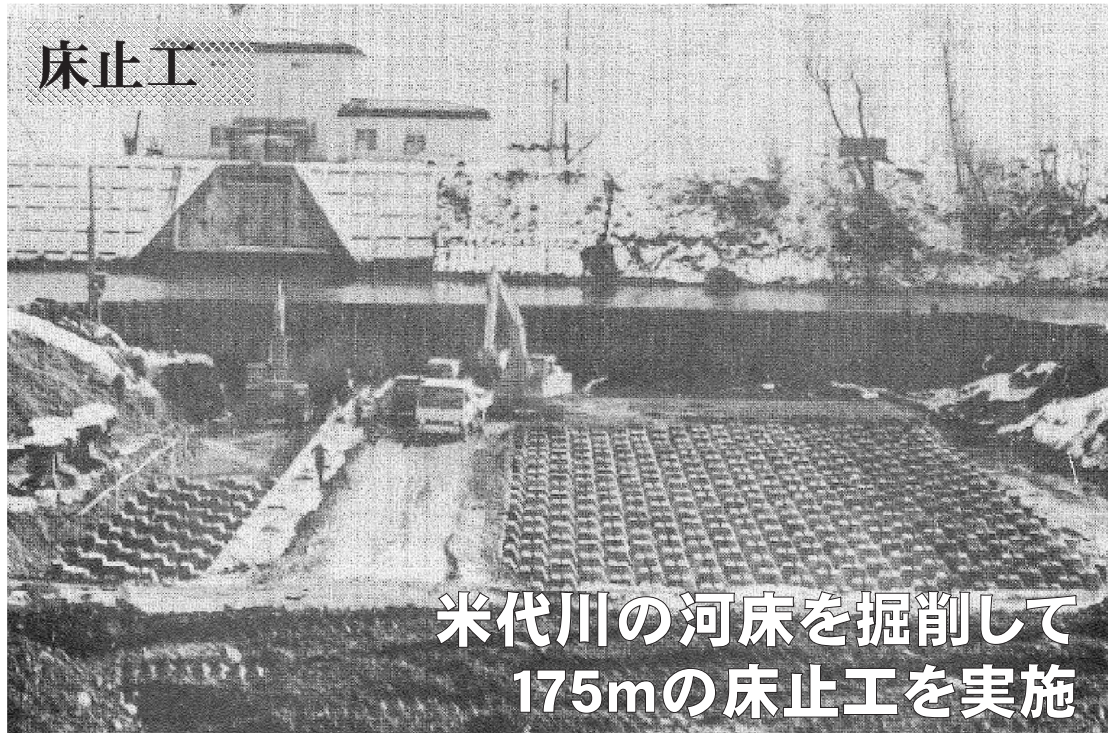


2基のモーターと操作盤



除塵機 (2基)





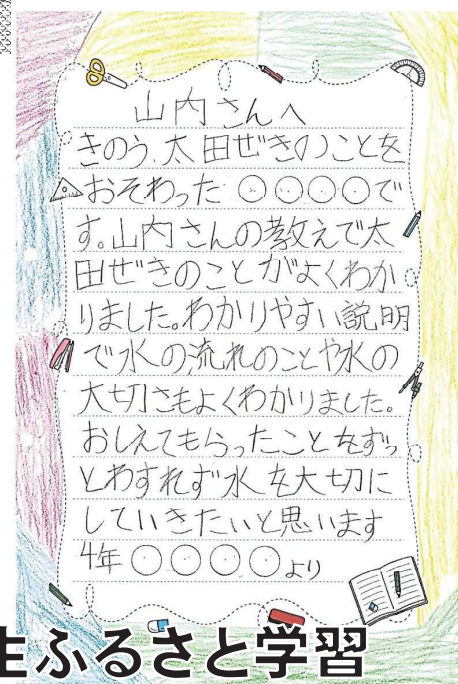


2. 鷹巣三堰の継承

(1) 地域の行事として



(2) 小学校の総合学習等を通じて



鷹巣東小学校4年生ふるさと学習

(2) 小学校の総合学習等を通じて



鷹巣小学校5年生総合学習

おわりに

現在の土地改良施設は先人たちがその時々に知恵や労力、費用を掛けて築いてきた証です。

今ある施設の重要さを再認識し、後世に伝えていくためにも、土地改良区は適正な維持管理に努めます。

～ご静聴ありがとうございました。～